

風がおしえてくれたこと。
いのちと暮らす、
いのちを食べる。

それは手づくりの世界でもあり、
この大地とともに暮らすプロフェッショナルな人びとの世界だ。
進歩ではなく、深められていくことを喜ぶ世界。
発展ではなく永遠の世界。技術ではなく技の世界。知識ではなく知恵の世界。
そしてこんな人間たちの営みを見守っている自然。
それはいまでは多くの人たちがあこがれている世界だ。

——内山 節 (哲学者)



ふつうの桜でも
綺麗に染まるんだけどね





春の季節に、桜の折れた山桜を発見!


田んぼはね、
ハマるんですよ



使い方がわからないから農業は使わない

 舞台は越後妻有の里山。この雪深い村に都会から移り住んだ木暮さん夫婦は、茅葺き屋根の古民家を修復し、見よう見まねで米を作って暮らしてきた。ゴリゴリと豆を挽いてコーヒーを淹れ、野山の恵みを食卓にならべる。草木染職人の松本さんは、山桜で染めた糸を夫婦並んで手織りする。色鮮やかな着物が仕立てあがるころ、娘さんが成人式を迎えた。

 悠々自適、気ままな田舎暮らしに見えるけれど、ときに自然はきびしい。冬ともなれば雪がしんと降り続け、来る日も来る日も雪かきに追われる。ひとりでは生きられない。茅葺きや稲刈りも協働作業だ。木暮さんのまわりには不思議と個性ゆたかな仲間が集まり、ことあるごとに囲炉裏を囲んで宴がはじまる。歌と笑い、もちろんお酒もかかせない。そうやって、ここでは新しいかたちの「結」がゆるやかに息づいている。

 ある春の朝、大きな地震がおきた。木暮さんの家が全壊したが、彼は再建を決意する——。

積雪が4メートルを超えるこの土地では「雪かき」を「雪掘り」と呼ぶ




レーザーディスクのカラオケも健在

大きな食べ物は、ごはん。



コシヒカリの里だからね

『阿賀に生きる』『阿賀の記憶』のスタッフたちが見つけたドキュメンタリー映画の新たな地平

 手間を惜しまず丹念に育てられた米や野菜が、私たちの日々の暮らしを彩るように、心をこめて作られた一本の映画が、人生のたいせつな糧となることがあります。『風の波紋』は、『阿賀に生きる』『阿賀の記憶』のスタッフたちが5年の歳月をかけて、じっくりと作りあげた映画です。ぜひ劇場のスクリーンでご堪能ください。

山羊はかわいいけれど、
ごちそうにもなる。
薬で炙ったタタキは絶品



風の波紋

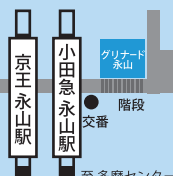
fb.com/kazenohamon.movie @kazenohamon www.kazenohamon.com



主催：TAMA 映画フォーラム実行委員会
お問合せ：080-5450-7204 (事務局直通)
042-337-6661 (永山公民館代表)
※上映当日は 070-5580-9071 (会場) へ

Twitter で最新情報をフォロー
@tamaeiga

Facebook ページに「いいね!」で参加
http://www.facebook.com/tamaeiga



会場:多摩市立永山公民館
ベルブ永山 5F
(東京都多摩市永山 1-5)
ベルブホールは [京王相模原線・小田急多摩線]
永山駅から徒歩 2分